

**保育現場における児童虐待の早期発見と初期対応について****— A市内の保育施設職員へのアンケート調査からチェックシートへの考察—**

○ 聖隷クリストファー大学 大学院 博士前期過程 社会福祉学研究科 灰谷 和代 (8219)

石川 瞭子 (聖隷クリストファー大学・2399)

キーワード：保育施設、虐待の早期発見、チェックシート

**1. 研究目的**

本研究は、保育現場における児童虐待チェックシートの活用状況や保育者の児童虐待に対する意識についての実態を調査・分析し、今後の保育現場で役立つ児童虐待対応マニュアル等の開発につなげていくことを目的とする。

**2. 研究の視点および方法**

近年、保育施設等での児童虐待の早期発見や初期対応についてのマニュアル化が行われてきているが、実際の保育現場で、どの程度、こうしたマニュアルを活用しているかは不明瞭である。また、「児童虐待の防止等に関する施策評価」（平成24年1月 総務省）では、保育所及び学校からの通告件数は増加しているが、虐待のおそれを認識しながら、保育所及び学校が児童相談所等に通告していない事例や通告までに1カ月以上要した事例があることが報告されている。今回、児童虐待マニュアル等の活用と児童虐待の早期発見や初期対応との関連性を調べるために、A市の保育施設235園（幼稚園・認可保育所・こども園・認証保育園・認可外保育園等）に所属する全職員約3360人に対し、過去に関係機関に配布されている「児童虐待対応マニュアル」から引用した「児童虐待チェックシート」を配布し、児童虐待に対する意識とチェックシートの活用について、16質問のアンケート調査を実施した。調査方法は、A市の保育所管轄の行政部署と教育委員会、各園長会等の了承を得た上で、A市内全ての保育施設長宛に一括発送もしくは持参して調査協力を依頼し、施設長から職員へ配布後、各職員による個別記入と個別返送を依頼した。なお、アンケート調査期間は平成25年1月から平成25年3月末までとし、アンケート回収後、単純集計とクロス集計で分析、記述部分についても分析を実施する。

**3. 倫理的配慮**

調査方法や質問項目について、質問の回答は無記名とする、各自、記入後は個別返送とする等の配慮をした。なお、本研究全体については、聖隷クリストファー大学倫理委員会の審査を受け承認を得た。

**4. 研究結果**

アンケート調査用紙と児童虐待チェックシートの配布数は3361部、そのうち回答返送数は1176部（回収率約34.7%）であった。回答者は、女性が全体の96%と大半を占め、年齢は20歳代36.8%、30歳代19.2%、40歳代19%、50歳代21.6%、60歳以上3.2%、不明0.3%であった。回答者の所持している資格で最も多かったのは、保育士が全体の49.3%、

幼稚園教諭免許が 41.8%と続いた。回答者の所属先は、幼稚園が全体の 41.5%、保育園 49.4%、その他の保育施設 8.6%で、勤務形態は、常勤（正社員）が全体の 71.9%を占めた。回答者の保育経験の年数は、15年以上の経験者が全体の 31.5%と最も多く、15年未満 14.9%、10年未満 25.3%、5年未満 21.9%、1年目 6.1%だった。回答者の中で園長等の管理職の役職に就いている職員は全体の 16.2%だった。「児童虐待という言葉を知ったことがある」と回答した職員は全体の 93.9%存在したが、実際に児童虐待を疑うような場面に出会ったことが、「ほとんどない」もしくは「全くない」と回答した職員は、全体の 68.8%と半数以上を占めた。児童虐待チェックシートを「よく使用している」と回答した職員が全体の 0.7%、「時々使用している」と回答した職員が全体の 6.4%で、児童虐待チェックシートを「使用している」と回答した職員は全体の 10%に満たなかったが、管理職の役職に就いていると考えられる 50歳代職員のうち 10.7%、60歳代職員のうち 21.6%は、児童虐待チェックシートを「使用している」と回答している。また、児童虐待チェックシートそのものを「見たことがない」と全体の 40.8%の職員が回答しているが、保育経験が 1年目職員と 15年以上職員については、「見たことがない」と回答している割合が 40%以上に達していない。児童虐待を疑うような場面があった時の対応について、「すぐに通告」と回答した職員は全体の 3.8%、「園内で検討後に通告」が 70.5%、「保護者に確認してから通告」1.8%、「しばらく子どもや子どもの家庭の様子を見てから通告」が 20.4%、「わからない」が 2.9%と回答している。通告を戸惑う理由として、「子どもが虐待を受けているかどうかの判断が難しい」と答えた職員が全体の 87.3%、「保護者との信頼関係を崩したくない」が 2.1%、「園の評判や信頼を失いたくない」が 0.3%、「通告先との連携が難しい」が 2.5%と回答している。児童虐待を早期発見・早期対応していくために何が必要かの質問に対して、全体的に最も多かった回答は、「児童虐待を判断するための情報」であり、次いで「他機関との連携」であった。それぞれの詳細については、当日ご報告したい。

## 5. 考察

保育施設職員が「児童虐待を判断するための情報」の必要性を感じているのにも関わらず、児童虐待対応ツールのひとつである、「児童虐待チェックシート」が保育施設職員に十分に周知および活用されず、児童虐待の発見に繋がっていない可能性が示唆された。

「児童虐待チェックシートを見たことがあっても、シートそのものの活用方法がわからない」「今回、配布された児童虐待チェックシートで、今後、冷静な判断をしていく必要があると感じた」等の記述もあり、児童虐待チェックシートが、保育職員の手元に存在していたとしても、上手く活用できていない可能性も考えられる。

今回の調査に協力を依頼した保育施設をはじめ、関係機関に、今回の研究結果を報告し、保育現場での虐待対応マニュアル等の改善および開発を検討していく必要がある。

また、今後の課題として、他市との比較を視野に入れて、チェックシートをはじめ、児童虐待対応マニュアル等の改善および開発の研究をすすめていきたい。